

## 11

日本バプテスト連盟ホームレス支援特別委員会  
ニュースレター

## 個性至上主義の落とし穴

高市和久（市川八幡教会）

20代、30代で路上に出る人が目立って増えてきたのを感じています。その背後にはおびただしい不安定就労者、不安定居住者がいます。先の見えない現実には政権が変わっても好転の兆しすらありません。

フリーターが若者の特権でもあるかのように「新しい働き方」などともはやされた時代は瞬く間に過ぎ去り、夢が覚めてみれば労働力の使い捨てだけが貫徹していました。他者をつごうよく利用しようとする欲望の毒薬が「個性」という糖衣にくるまれていた事実を、今あらためて見据える必要があるのではないのでしょうか。若い人々との対話を深めていくためには、まずわたしたちがこのことばの落とし穴に気づく必要があります。そう思うのです。

個性を連呼する時代のオカシサを小沢牧子はこう指摘しています。「実際には、個性とは『よいと評価され望まれる個性』のことであり、望まれない個性、問題だと見なされる個性は、矯正や治療や特別教育の対象とされる。そのどちらでもない個性は、『平凡で個性がない』という語義矛盾にさらされて終わる。こうして、個性とはほとんど能力の言い換えになっている」（『心を商品化する社会』洋泉社）。

人がひとりひとり違うのは紛れもない事実です。聖書もまた個人差を創造された神を賛美しますが、貧しさの中に置かれた人、病気や障がいを持つ人の存在のかけがえのなさを主張する点では、この世の思想と決定的に違っているはず。そこに比類のない慰めと希望があります。

しかし、個性を能力にすり替えていく時代にあっては、そうした善意のメッセージさえも思わぬわい曲を被るおそれがあります。もし世界を造られた方が、同時に奴隷を解放し、ともに生きることを命じられる方であることを忘れて

しまったら、もし隣人を愛することを抜きにして神を愛することができるかのような錯覚に陥ってしまったら、わたしたちは甘美なことばで人間の選別に手を貸すことになるでしょう。そう考えるとこんなことをいってみたいくなるのです。

わたしはだれでしょう

お隣のショーウィンドーの前に立って  
詩人は言う「もともと特別なオンリー・ワン」  
だがわたしは花屋に並ぶことはない  
つぼみのうちに切り取られやお屋の棚から冷蔵庫に運ばれる  
うっかり花でも咲かせようものなら  
人は舌打ちしてわたしを捨てさえる  
親類のカリくんは

それでもフラワーと呼んでもらえるのだが

個性とはすでにあるものであり、人間の活動の中で発達していくものであって、意のままに作り出せるものではありません。個性を持つと言う前に、他者の個性に目を注ぎ、創造の主を——そして大急ぎで付け加えますが、解放の主を——おそれつつ賛美するわたしたちであり、社会でなければならぬと思います。



## ホームレス支援特別委員会 フィールドワーク2010報告

日時：2011年2月7日～9日

場所：洋光台教会、横浜寿町

参加者：39名

### 【7日】

#### ●基調講演 渡辺英俊師

基調講演では、日本基督教団なか伝道所の渡辺英俊牧師が寿の歴史、移住労働者やアルコール依存と戦う人たちへの支援を中心に語られました。

300m四方の土地に6,500人が住む寿地区は、平方キロあたり65,000人と日本一の人口密集地帯です。JR石川町駅の東は元町中華街、西が寿です。19世紀末に水田を埋め立てて

誕生した織物問屋街が戦後米軍に接収され、50年代半ばに返還されてから寄せ場となりました。50年代から60年代にかけては朝鮮戦争とベトナム戦争の港湾荷役、70年代には高度成長期の土木・建設労働に日雇い労働者を動員してきたのです。

80年代末からは日本の収奪によるアジアの貧困化と円高で外国人労働者が急増、資格外就労の弱みにつけ込んで賃金を払わず、抗議すると入管法違反で引き渡す手口が横行しました。彼らは寿に住んでいた最後の日雇い労働者でしたが、バブル崩壊後は急減し、寿は高齢者や障がいを持つ人の町となりました。資格外就労に代わって研修生、技能実習生という現代の奴隷制度が確立し、日雇い労働者は電話一本で呼び出せる派遣労働者になって、寄せ場は役目を終えました。外国人登録数の上昇を追うようにオーバーステイが増加し、次いで寿の外国人人口が増えるという統計は、資格外就労→賃金未払いや災害→逃げ出して寿へ、という筋を物語ります。

最後に、神は天におられるのか、地べたに、片隅におられるのか、キリストは僕の身分になったあと結局神に戻るのか、今も低みで働いておられるのか、教会は栄光のキリストを頭とする栄光の体なのか、スラムの住民の互助組織なのかという三つの問いかけをいただきました。日雇い労働者、民族差別の中で簡宿経営で身を立てようとしたオーナー、病院や障がい者施設からあふれてきた人たち。寿には無数の人々の悲しい物語があります。その中でいっしょに飯を食う共同体の存在が小さな希望となっているのを感じました。（東八幡教会 足達愛湖）



### 【8日】

#### ●寿町

横浜に住んで25年になりますが、寿町の名前は知ってはいるものの一度も行ったことがありませんでした。ぜひ寿町のことやホームレス支援活動のことを知りたいと思い、フィールドワークに参加させていただきました。

2月8日の朝、参加者の方々と共に寿町に向かい、まず4グループに分かれて活動しました。

私のグループは、幻聴・幻覚が見えるほどのアルコール依存だった方からの話を伺いました。アルコールのせいで家族も仕事も失って寿町に来たこの方は、アルコール依存者の回復を支援している「寿アルク」に出会い、サポートを受けて立ち直ってこられた体験や、一生続くアルコールとの戦いを話して下さいました。アルコール依存のせいですべてを失い、孤独をまぎらすためにまたお酒を飲んでしまう、依存から抜け出すのは本人の力だけではどうしようもなく、「寿アルク」や「AA」などの継続的なサポートの必要性を強く感じました。

午後はホームレス自立支援施設を見学し、ボランティアの方の説明を受けながら簡易宿泊所が立ち並ぶ狭い町を歩きました。町で見かけた人はほとんどが男性で、杖をついて歩いている人や車椅子の人など、高齢者や体の不自由な人を多く見かけました。

その後、日本基督教団寿地区センター主事の三森妃佐子さんから、寿町の現状や支援活動のことを伺いました。かつては港湾労働などの日雇い労働者が暮らしていた町が、次第に障がいや病いや様々な事情によって流れ着いた人々が住む町となったそうです。

多くの方が高齢者で生活保護を受給しながら一泊2200円の簡易宿泊所で暮らしていること、また最近は一泊2200円のリストラなどによって若者や外国人が増えてきたこと、さらには横浜市内には路上生活者が710人もおられることを聞いて、弱さや苦難を抱えて生きてきた方々を締め出していく社会の冷たい現実を知りショックを受けました。そして近いのに遠いこととして、寿町やホームレスの方々から目をそらしていた自分にも気づかされました。

また地区センターを拠点として、炊き出し、夜回り、障がい者作業所やアルコール依存者の回復支援など、ホームレスの人々の生活を支えるために行なわれている様々な活動のことや、ホームレスの人々と向き合い共に生きようと奉仕されている渡辺先生や三森さんのお話を聞くことができ、色々なことを学び考える機会となりました。

アルコール依存の方が何度もおっしゃっていた「孤独が一番つらい」という言葉、三森さんの「また寿町へ来てください」という言葉が忘れられません。今私がいる場所で、私がすることは何なのかイエス様からの宿題として祈り求めています。フィールドワークへ参加できたことを心より感謝致します。（向井直子・洋光台教会）

## ●「アルク」

2日目の寿町フィールドワークは、私達のグループはアルコール依存症者のためのデイケアセンター「アルク」訪問の予定だったが、施設工事中につき、なか伝道所でメンバーの小笠原さんからお話を伺った。

小笠原さんのこれまでの歩みとアルクに出会ってから的人生をお聞きして、アルコール依存症は本当に恐ろしい「病気」であること、治療し仲間の支えがあれば決して完治はしないけれども回復することができるのだということを知った。家族があつてとび職人であった彼がお酒によって全てを失う。何もかもなくなるまで飲み続け、最後には死に至る病。幻覚を見るようになり、正気に返りたくて自分の指を切り落としたが、もう自分ではどうにもならなくなって寿町の精神科を訪ねた。アルクを紹介され、同じ経験をして立ち直った先輩に会って希望を見出し、通うことを決めた彼の話は胸に迫った。

アルクの回復プログラムを修了すると次のステップへ。今彼は仕事をしながらAA（匿名断酒会とも訳される当事者による当事者のための自助グループ）に通う。「今日1日（飲まないで過ごす）」を合言葉に仲間同士支えあふ。本名も肩書きも紹介も不要。365日いつからでも誰でも受け入れられる。アメリカのカトリックの神父が作ったという治療のための12のステップの一番始めは、自分ではどうにもならないことを認めるといふことだそう。自分で酒を止めることはできない。が、生きたいのか、このまま投げ出して飲み続けて死ぬのか決めるのは自分しかない。体験者の口から出る言葉は重く響いた。

目の前にいた小笠原さんは穏やかで、飾らないがやさしい語り口だった。自分の使命を果たしたいという思いが滲み出ている素敵なお方だった。アルコール依存症の仲間のために、まだ見ぬ仲間のためになら自分の過去もありのまま語り、一人でも多くの人を支えたいという強い信念を感じた。私は以前岐阜で自立支援を通して多くの自立者に出会ったが、こんなにも自信を持って生きておられる方に出会ったのは初めてだった。とても考えさせられた。同時に、きめの細かい自立支援メニューを長年かかって実現されたことは素晴らしいと思った。（河内理恵・東京北教会）

## ●「ろばの家」

「ろばの家」はNPO法人ろばと野草の会が運営する、精神障がいをもつ人たちのための地域活動支援センター（地域作業所型）である。小さなアパートの一室をかりながら、精神的病をもつ人たちが、会話や食事、作業を通して、互いに支え合う場所である。

ろばの家の設置が始められたのは1986年である。寿町には、精神の病を抱えた人々が居住してることが多いそうだ。その多くの人々が居場所をなくし、行き場をなくしている。実際に病を抱える人から居場

所を求める声が起こったようだ。ろばの家は、そのような失った居場所を作り、自立支援を行うことを一つの目的として始められた。

「ろばの家」は月曜から金曜まで開かれ、職員の方2,3名が常時働かされている。ある利用者の方は隣町から、寿町内に建つドヤから、作業所へと通っている。

主に行っている作業は、菓子、パン、石けん作りなどの内職作業である。菓子類は近くの喫茶で販売する。バザーが開かれれば、作った製品を販売することもあるそうだ。毎朝ミーティングが行われ、出席者の確認と一日にやるべきことの確認が交わされる。それが終わると、キッチンで一斉に作業にとりかかる。（今回の訪問では、クッキー、そしてコンコンブルというフランスの固焼きパンが作られた。）その傍らでは、昼食の準備にあたる人や、買出しにいく人もいる。午前の作業の後は、昼食をみんなで食べる。それが終わると午後の作業に移る。すべてのこと一つ一つは自分達で決め、働く職員の方がアシストする形で一日の作業が進められていく。そして15時にはすべてのことを終え、自由時間を過ごし、それぞれの帰路につく。このような流れは、利用者の方にとって一日の生活となっている。

「ろばの家」は幅広い年齢の方が利用されている。20代の青年もいれば、50代、60代の人もある。利用者の方は、突然訪問した見ず知らずの私を、温かく拍手で歓迎してくれるほどに温かい。過去に亡くなった方もいたようで、談話室には亡くなった方写真に「いつまでも共に」という言葉と花束が飾られていた。

人と人との繋がりは、私達の原動力ではないか。生まれる絆の広がり、希望を見出すきっかけになるのではないか。神によって与えられ、守られているかけがえのないいのちを尊び、一人一人の違いを認め、手を取り合い生きること。このことこそ、神が与えられた使命なのではないだろうか。フィールドワークを通して学ばされたことである。（小野祐基・福岡有田教会）



パンづくり

## ●「シャロームの家」

私は障害者地域作業所のひとつシャロームの家にいきました。今シャロームの家には3つの作業所があり、64名の人が出てきています。地域の人に来てくれる場所を目指したものの、20年間でこの家を訪ねてくれた地域の方はたったひとりだったそうです。

作業所では、ホテルのナプキンを折りたたんだり、お菓子の箱を折ったり、自動車部品を組み立てたり、ビーズの制作をしたり、という作業をしています。私は第一作業所と第三作業所について話を聞きました。第一作業所ではホテルのナプキンをたたむ作業を教えてくださいました。糸くずを丁寧にガムテープでとり、端についている糸は糸切りばさみで切っけきれいにし、手アイロンできれいにたたんでいく。1枚3円の作業。

第三作業所ではみんなで楽しそうにお茶を飲んでいて、具体的な作業はしていませんでした。ここは、大勢で一緒にする作業が苦手なひと、ほかの人と関係がうまく築けない人の居場所をつくっている場所でした。

その日、第三作業所に来ていたのは4人。「親に捨てられた」ひと、「物心ついたら窃盗で生きていた」ひと、「親から虐待を受けて逃げてきた」ひと。そして、やっと寿町にたどりついた人たち。寿町にたどりついて、生活保護を受けて作業所にくることになっても、そこでも、人とうまくやれない、家に閉じこもる、そんな人たちをこの第三作業所は受けとめて、「作業をしなくてもいいから話において」と招いています。窃盗や失踪、ギャンブルを繰り返す、失敗をする人もいるそうです。「だけど、謝ってきたら許す、これがシャロームの家の約束」と所長がおっしゃっていました。あくまでも、どこまでも「受ける」。これが寿町のキーワードのように思いました。窃盗を繰り返した末に逮捕されて拘留された青年は「拘留所の仲間から『ここをでたら寿町にいけ。あそこならなんとかしてくれる人がいるから』といわれてここにたどりついた」といっていました。

さて、教会（わたし）はどうでしょうか。「あの教会にいけ、なんとかしてくれる人がいるから」と刑務所でいってもらえているのでしょうか。この宿題は「YES・NO」で終われない宿題です。これからの一步一步で解いていく宿題とっております。第三作業所で出会ったおひとりおひとりの笑顔、訪問者に期待を込めて語ってくださった所長さんご夫妻のお顔を思い浮かべながら報告を終えます。

（中嶋名津子・浦和教会）

## ●ディ・サービスに参加して

寿町での炊き出しには何回か参加していたので、なつかしく、三森さんや寿の皆様に久しぶりにお会いできてうれしかったです。

「はまかせ」の中にあるディ・サービスに女性5人で参加しました。来所されているメンバーは全員男性で、平均年齢70歳。みな、自分で歩いてくるそうです。1日の食事代300円と入浴料金100円でだいたい週2回くらい利用されているとのこと。入浴は毎日きてもよいそうです。

杉本さんという介護士の方が、皆さんに最近のニュースやお話をするとところからはじまって、体操やゲームの時間もたくさんありました。吹き矢のゲームに私も参加させていただきましたが、むずかしく、5本のうち一本もあたりませんでした。それをみていたおじさんたちが「女性にしてはよく飛ぶほうだ」といっていただきました。体操やゲームの椅子を運んだり、お茶のポットとお湯をとりにいったり、みな、自分たちでしていました。

杉本さんが「寿は町全体が大きな老人ホームとと思ってください。みんな、ここでは生きる権利がある。クリスチャンである三森さんを知らない人は誰もいないです。彼女は愛をもってみんなにかかわってくれている」といってました。この現場でもキリストのかおろを感じました。

（対田澄子・相模中央教会）



寿町を歩く



シャロームの家 ナプキン折り

ホームレス支援特別委員会フィールドワークのお知らせ  
**「泣く者とともに泣く：震災下におけるホームの回復」**

3月11日の東日本大震災は東北地方と関東地方北部の太平洋岸に大きな被害をもたらし、いまだ避難所から出ることのできない人々がいる一方、地域の経済基盤の破壊が深刻な影響を及ぼしつつあります。

ホームレス支援特別委員会では、ホームレス問題をホーム（家庭）なき人々の問題ととらえ、単にハウス（家屋）をあてがうことを超えてホーム=関係の回復を指し示すことにキリスト教会の使命を見てきました。今回の震災を通して、ホームを「ともに泣くことのできる関係」ととらえるよう促されています。高みから叱咤激励するのではなく、被災地の小さくされた人々とともに、痛みつつみことばを求めていくことを願ってフィールドワークを企画しました。

特に、(1) 今回の災害を契機とする失業・貧困が弱者に及ぼす影響、(2) ソーシャル・ビジネス、パーソナル・サポートなどの取り組みの状況、(3) おびただしい死と将来の不安を前にしての教会の宣教と祈り、の3点に重点を置いて学びたいと考えています。どうぞ奮ってご参加ください。

■場所 南光台教会、宮城県北地区

■宿泊 南光台教会：仙台市泉区南光台5-5-5 022(271)8371  
地下鉄黒松駅下車徒歩10分

■日程 2011年9月14日（水）～16日（金）

14日15:00-16:30 委員会  
17:00-18:00 主題解題 奥田知志氏（東八幡教会）  
18:00-19:00 夕食  
19:00-20:30 ミニコンサートと祈りの集い 谷本仰氏（南小倉教会）

15日 9:30-10:30 南光台教会→長町インター→石巻  
10:30-12:00 石巻市内見学  
12:00-15:00 蛤浜見学・昼食・移動  
15:00-19:00 南三陸町志津川見学・移動  
19:00 南光台教会帰着後夕食

16日10:00-12:00 取り組みの報告と聖書研究（井形英絵ほか）  
12:00-13:00 昼食  
13:00-17:00 ディスカッション（見学の分かち合いを含む）

■参加費 宿泊あり 10,000円（含14日夕食、15日昼食、夕食、16日昼食、宿泊費）  
宿泊なし 7,000円（含14日夕食、15日昼食、夕食、16日昼食）

■交通費補助 遠方の方に交通費補助（一部）があります。

■申込み 別紙申し込みにて連盟事務所までお申し込みください。  
締め切りは8月末です。ただし、定員（27名）になり次第締め切ります。

## 【ニュース】

### ●釜ヶ崎支援者7人を逮捕 —3290人の権利奪った末に

4月5日、大阪府警は釜ヶ崎の支援者7人を公務執行妨害容疑で逮捕、その後3人は釈放され、日本基督教団の牧師ひとりを含む4人が容疑を威力業務妨害に切り換えて起訴されました。がん患者を含む4人は「逃亡のおそれ」を理由に大阪拘置所にこら留されたまま6月20日初公判を迎えます。

ドヤ住まいや野宿を強いられている釜ヶ崎の多くの人々が、最低限の権利を行使するために支援団体の事務所を住所として住民登録をしてきました。行政側も30年来了解してきたことです。ところが、一部の大阪市議がこれを問題にした結果、大阪市は2007年に3290人の住民票を一方的に抹消しました。その直後の統一地方選挙に際して、支援団体は投票所前で参政権の侵害に抗議するとともに「投票所で簡易宿泊所などに電話連絡して、当人が4か月以上萩之茶屋投票所区内に居住していることが確認できれば、その場で住民票を復活し、投票させる」との選管の約束に基づき投票を呼びかけました。2010年7月の参議院選挙でも同様の行動を行ったところ、9か月近くを経て逮捕となったものです。

公務執行妨害がこれほどの時間を置いて問題にされるのは異例というより異常なことです。選挙直前に逮捕すれば、起訴に持ち込めなくても投票日までは拘束しておくことができるので、投票所での行動を阻止できるという読みがあったと思われます。事実、統一地方選挙後半投票日の翌25日に3人は不起訴で釈放されています。不都合な言動をするおそれのある人間は多少無理をして逮捕しても、あとで不起訴にすれば法廷で逮捕の妥当性を問われる心配すらないわけです。残り4人については、さすがに公務執行妨害では公判を維持できないと見たか、検察官は罪名を威力業務妨害に変更して起訴しました。支援者のパソコン、携帯電話、預金通帳など事件に関係のない「証拠」を押収していることから、支援団体の内情を探るスパイ活動がほんとうの目的ではないかと疑われます。

みんなで投票しましょうと宣伝カーを走らせておきながら、ホームレスに同じことを言

うと公務の妨害となるとはなんとも不可解なことです。一市民の立場から言えば、参政権という大事な権利を奪った者をこそ逮捕・起訴してもらいたいところですが、そんな話はもちろん聞こえてきません。多くの人がホームレス状態に置かれている現状に心を痛めている人々は、この事件をきっかけに「国とは何だろうか」と考え始めるでしょう。ローマ書13章が教えるように、権威者は「善を行わせ」「悪を行う者に怒りをもって報いる」ことによって神に仕えているのでしょうか。国が住民を把握することが正当化されるのも、神に仕えるという目的に役立つ限りでの話です。聖書の中でも、人口調査につきまとう問題点がダビデの例に示されています（サムエル下24章）。

日本基督教団関西労働者伝道委員会の村山森忠協力牧師は「当局は公民権運動に発展することを恐れている」と言います。教会はどうでしょうか。部落のキリスト者が「重たい口をようやく開けて苦しみを言い表し、不正義を糾弾し始めるや、直ちに『何のことかわからぬ』、『不思議である』と一蹴する」教会の中で苦しみ（栗林輝夫『荊冠の神学』）、熊本「同化」差別発言事件の被害者として問題を提起した金聖孝牧師が「なぜゆるさないのか」「敵を愛すべきだ」と非難されたことが思われます。ホームレス支援の運動も同じ坂にさしかかっているように見えます。

おにぎりを渡し、自立支援住宅を提供し、生活保護法の適用を求め……と広がってきたわたしたちの運動は、今、ひとりひとりが権利主体として立ち上がることを励ます側に決然と立つことができるでしょうか。当局の動きを見張るとともに、路上で出会った人々と生涯の友人になるという初心に帰って、みずからを吟味しなければなりません。その道は容易ならざる、しかし実り豊かな道となることでしょう。

（高市和久・市川八幡教会）

\*この事件の最新情報は  
<http://hatarakibito.at.webry.info/>  
で見ることができます。

## 【支援活動報告】

### ●おにぎりの会報告

松藤一作（福岡西部教会）

NPO法人ホームレス支援「福岡おにぎりの会」は、博多区にある美野島カトリック司牧センターを拠点にして活動をしています。中心メンバーはカトリック・プロテスタントのキリスト者、そして浄土真宗の僧侶といった宗教者から、市民の人たちまで幅広く参加してくれています。

炊き出しといった基礎的な支援に始まり、相談支援、自立支援、そして自立後のアフターフォローに至るまで、その活動の範囲も幅広く整えています。最近では自立者の高齢化が進み、葬儀といった場面に関わる事も多くなってきましたが、そのような時に仏教者がいてくれているということは、他の自立者にとっても安心感を与えることが出来ています。

炊き出しは、越冬期（12月から3月中旬）は毎週金曜日、通年期（4月から11月）は毎月第一金曜日に行っています。夏場（5月から10月）は、食中毒への配慮から、手作りのおにぎりではなく既製品のパンを配っています。こうした食材は、ボランティアの手によるものだけでなく、グリーンコープ生協や不二精機といった地域の企業による提供もあり、大変助けられています。不二精機は、おにぎりを作る機械を製造する会社で、長年私たちの活動におにぎりを提供して下さいています。

ボランティアには、学校の学生たちの姿も多く見られ、中にはがんばって毎回参加している小学一年生の男の子がいたりもします。

炊き出しは9方面にわかれ、ある方面では公園にホームレスの人たちが並んでくださるコースもあれば、別の方面は一つ一つの小屋に丁寧に回っていくコースもあるなど、様々です。

福岡市では、2008年のリーマンショックを受けて、行政の対策もようやく本格始動し始めました。路上からの生活保護申請を受け付けるようになり、2009年の年頭には700人ほどのおにぎりを用意していましたが、今では炊き出しで会う方々の数が200人を下回るようになってきています。もち

ろん、人数として減ってきているとはいえ、毎回の炊き出しでは新たに出会う方が後を絶ちません。人数だけを見ていくと、まるで「解決」に向かっているように思えますが、この社会が「ホームレスを生み出し続けている社会」であることに変わりはありません。最近では、おにぎりを配るボランティアの数の方が多かったりすることもあり、相手に脅威を与えないようにする工夫が必要とされます。

どこの地域もそうかも知れませんが、行政の施策が進む中で全体の数は減っているものの、その分、出会うホームレスの人たちは、新しく野宿生活を始めたばかりでどうしたら良いのかまったく分からない人たちか、或いは、様々な問題や課題を抱えてアパートに入る事の出来ない人たちといった二分化されつつあります。特に後者の人たちに対する支援にあたっては、あらゆる社会制度を活用するなど、きめの細かい対応が必要とされ、かつご本人の意識を「自立」へと向けて行くことの困難さを抱えています。

一方で、自立した方々のケアにあたっては、月に一度「アカシアの会」を開催し、映画会をしたり、餅つき大会をしたり、花見やドライブに出掛けたりと、「生きる喜び」や「共にある喜び」を一緒に分かち合っているようなプログラムを進めています。さらに、食事会を計画して、一緒にご飯を食べるということも行っています。これは当初、自炊が出来るように料理教室を開こうと計画していたことでしたが、自立者の中に、料理に対する温度差があまりにも激しすぎて、結局、一緒に食事をするというところで落ち着いてしまいました。しかしそれでも、普段はなかなか口にすることの少ない「家庭料理」「手作り料理」を一緒に頂くことの意味は大きく、集っている方々は喜んで下さっています。

福岡にはいくつものホームレス支援団体があり、そうした民間団体や行政との関わりの中で、今後「おにぎりの会」がさらに充実した支援活動を行なっていくことが出来るように求められていると言えます。また、福岡地区の様々なバプテスト教会がこうした働きに関わって下さり、宣教の課題のひとつとして位置付けて下さっている事も感謝なことです。「共に生きる」ということのしんどさと共に、そこにある喜びを、今後とも分かち合っていく事が出来ればと願っています。

## ホームレス支援教会一覧

当委員会が把握しているホームレス支援を定期的に行っている地区と教会、定期的に炊き出しなどに出かける支援者が所属している教会は以下の通りです。活動の問い合わせ教会のみ電話番号を記しました。当委員会が把握できていない情報、「ここでもやっているよ」「うちでもやっているの載せてほしい」という情報がありましたら、ぜひ、連盟事務局気付、ホームレス委員会あてご一報くだされば幸いです。尚、ここに記していない教会・伝道所以外にも、献金や物資献品などを通して支援活動をささげてくださっている教会・伝道所が多くあります。皆様の関心とお祈りを感謝いたします。

### 【東京地区】

目白ヶ丘教会ホームレス支援有志の会

### 【市川地区】

日本バプテスト連盟市川八幡教会

047-332-5197

日本バプテスト連盟市川大野教会

日本バプテスト浦和キリスト教会

### 【平塚地区】

平塚バプテスト教会

### 【相模地区】

日本バプテスト相模中央キリスト教会

### 【岐阜地区】

岐阜バプテスト教会

058-265-0881

### 【京都地区】

日本バプテスト京都教会

075-231-1351

### 【平野地区】

平野バプテスト教会

06-6708-5852

日本バプテスト連盟シオンの丘教会

### 【兵庫地区】

日本バプテスト連盟浜甲子園教会

0798-41-5300

神戸バプテスト教会

神戸西バプテスト教会

神戸伊川キリスト教会

### 【香川地区】

日本バプテスト連盟恵キリスト教会

日本バプテスト連盟高松常磐町キリスト教会

### 【北九州地区】

日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会

093-651-6669

日本バプテスト小倉キリスト教会

南小倉バプテスト教会

日本バプテストシオン山教会

若松バプテスト教会

日本バプテスト枝光キリスト教会

### 【福岡地区】

日本バプテスト福岡基督教会

福岡西部バプテスト教会

092-323-5151

バプテスト東福岡教会

福岡国際キリスト教会

平尾バプテスト教会

長住バプテスト教会

日本バプテスト連盟宇美キリスト教会

### 【久留米地区】

日本バプテスト連盟鳥栖教会

日本バプテスト連盟久留米荒木教会

0942-27-0116

日本バプテスト連盟久留米教会

### 【長崎地区】

長崎バプテスト教会

095-826-6935

### 【沖縄地区】

日本バプテスト連盟那覇新都心キリスト伝道所

098-942-4775

<冊子が発行されました！>

日本バプテスト連盟ホームレス支援特別委員会編

発言集 2001-2007講演・発題・説教ほか)

『「ホームレス」と教会』(220頁 A5版 700円)

お問合せ・お申込は・・・下記までお願いします。

